

《重点目標：自ら働きかける子どもの育成》

光りあふれる下妻小学校



# むぎの子

筑後市立下妻小学校便り

令和5年11月20日号

文責 校長 亀崎美穂子



## ふれあい収穫

10月27日、ふれあい収穫を行いました。大きく育った稲を、ペアになって収穫しました。稲を刈る子、受け取って運ぶ子。途中で役割を交代しながら、鎌を上手に使用して最後の1本まで丁寧に刈りました。落ち穂も残らず拾いました。驚いて飛び回るバッタやカエルにも癒やされながら、楽しく作業を進めました。



この米は、太田黒さんに管理をお願いしていますが、FFC 農法という自然の力を生かした農法で育てられているそうです。今年もたくさん収穫できたので、12月のしめ縄・感謝の会の日に餅米を販売したり、お餅にして地域の一人暮らしの高齢者の方に配ったりしたいと思います。

ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

## しもつま祭に参加

2回目を迎えたしもつま祭り。今年は上学年のソーランに加え、下学年の遊びの広場、全学年での合唱と、足を運んだ子ども達が何かしら参加できるようにしました。子ども達は、朝の始業前にソーランを練習したり、生活科や総合学習の時間に準備をしたりして当日に臨みました。当日はお天気も味方して、のびのびと活動する姿を見ることができました。



また、6年生が総合の学習で「地域の活性化のために自分達にできること」として取り組んだ、しもつまバス「みどり号」のPRや募金活動も行いました。集まったお金は、会長の力武さんと事務局の松竹さんにお渡ししました。下妻の地域のため少しでも役に立ったと思ったことが、子ども達への何よりのご褒美でした。

祭り当日、子ども達のお世話をしてくださった保護者の皆様、お忙しい中、本当にありがとうございました。



## 青少年健全育成のための意見発表会

11月5日、サザンクスで青少年健全育成のための意見発表会が開催されました。今年は、6年生の平川大晴さんが学校代表として発表してくれました。「人や社会のために学んでいきたい」という思いがとても心に響きました。全文を紹介します。

学び続けるということ

筑後市立下妻小学校 六年 平川 大晴

「何のために勉強をするのですか。」

そう聞かれたら、みなさんは何と答えますか。

「自分の将来のためです。」

少し前までの私なら、きっとこう答えたでしょう。勉強をしてたくさんの知識を身に付けることは、自分の将来に役に立つと考えていたからです。

そんな私が、福沢諭吉と出会ったのは、あの有名な言葉がふと目にとまったからでした。

「天は人の上に人を造らず。

人の下に人を造らず。」

この言葉は、福沢諭吉の著書である「学問のすすめ」の冒頭を飾る言葉です。人々はみな平等と考える素晴らしい人だと思いましたが、それだけではありませんでした。この言葉には、人々の平等を唱えるとともに、人々が平等に学問に取り組めるようにすべきだという願いも込められていました。

なぜ諭吉は、こんなにも強く、学問の重要性について説いたのでしょうか。

1835年、諭吉は、中津藩の武士の子どもとして生を受けました。幼いころは学問とは無縁の暮らしていましたが、儒学者であった父親の思いを受け、今の私と同じ12才のころから中国の歴史書「漢書」を読み始めます。15巻もある漢書を暗記するほど読み込み、中津一と言われるほどの学力を身に付けていきます。しかし、当時は、上級の武士と下級の武士の間には身分の差がありました。どんなに学問ができて、どんなに力をつけても、上級の武士には逆らえない社会です。諭吉は、この頃から、平等な社会を実現したいという夢をもつようになりました。

1854年、ペリーが浦賀に来航したことをきっかけに、オランダの学問である蘭学を学ぶ中で、「適塾」の塾長である緒方洪庵に出会います。身分の上下なく塾生全員が勉学に打ち込む環境の素晴らしさに感銘を受けた諭吉は、さらに学問にのめり込んでいきました。



力を認められた諭吉は、アメリカで英語を学んだ後、遣欧使節団の一員としてヨーロッパへ向かいます。そこで目にしたのは、人が一人一人独立した個人として評価されている平等で豊かな社会でした。諭吉は、諸外国の考え方に深く共感し、教育にさらに力を入れ始めるのです。

そして、江戸から明治へと、時代が大きく変わろうとしているさなか、「西洋事情」と「学問のすすめ」の2冊を立て続けに出版します。

身分制度が残り、外国を排除しようとする攘夷論者が数多くいる日本で、西洋を手本とするような新たな考えを唱えることは、簡単なことではなかったと思います。しかし、諭吉は、自分が得た知識や経験を、惜しみなく人々に伝えました。それほどまでに、日本という国やそこで暮らす国民一人一人の自由や平等、幸福を願っていたのです。

そんな諭吉の考えや行動力に、私は感動しました。学問は、自分のためにするものだと思っていた私にとって、自分が学ぶことで人や社会の助けになるという考えはなかったからです。

私には獣医師になるという夢があります。その夢を叶えるために、これからもたくさんのことを学んでいかなければなりません。しかし、今は、その先にある、生き物の命と向き合うために、動物と共に生きる人を笑顔にするためにこそ学んでいかなければならないのだと思えるようになりました。

「なぜ学ぶのですか。」

今、そう問われたら、私はこう答えます。

「もちろん、自分のために。」

そして、周りの人や社会のために。」